



•Tackle Guide
私のヒラメ仕掛けは、ハリスは潮が速いときは全長90センチほどの長めにし、潮が緩いときは60センチと短めにする。捨て糸は根掛かりしやすい場所では70センチと長めで、砂地なら40センチほどと短めとしている。

私が船長からあれやこれや
この海底は硬い岩盤が広がるフィールドとなっている。根掛かりは少ないものの、時折オモリが岩に当たり、これをヒラメのアタリと勘違いしがちだ。



▲ヒラメ初挑戦で本命キャッチ、川村さんおめでとうございませう！

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

しばらく梅雨が続きそうですが、7月に入って気分は夏モード
関東周辺の海水温も上昇、夏の魚やイカ釣りが盛り上がってます!

▲塙くんが上げた1.5キロ。身が厚く見た目より重量がある



浪岡さんがアタリをとらえる。これは40センチ級のカンコ(ウツカリカサゴ)だったが、直後の投入で再び浪岡さんの竿が海面に突き刺さる。「重い、竿が立たない」と必

一発逆転ヒット!

6時半過ぎ、移動して水深30メートルで再開すると、1投目から右トモの浪岡さんにアタリがきて1キロ級のヒラメを取り込む。それを写真に収めていると、「鈴木さんの竿にアタってねえーか?」と船長が知らせてくれたので、席に戻って竿を立てるとグイッと曲がった。しかし上がってきたのは35センチのウスメバルでガツカリ。

「取材で動き回って竿を手にできないからしょうがないよ」と船長は慰めてくれたが、シーズン最初のヒラメオデコが私とあっては面目が立たない。そこで、真剣に釣りに没頭。ゆっくり誘いを繰り返してると、プルプルとイワシが暴れる感触が伝わってきたので、竿を止めて待つとガツガツとたたかれた。これが最後のチャンス、絶対に逃すわけにはいかない。合わせるタイミングをうかがい、

死にこらえる浪岡さん。徐々に浮かせて船長のタモに収まったヒラメは3.1キロのグッドサイズ。

続けて強烈な引き込みでバトルを始めたのは川村さんだ。こちらは青物特有の横走りを見せ、予想どおり3キロのヒラマサが浮上。塙くんも2枚目となる1.5キロのヒラメを取り込み、浪岡さんは80グラムと1.8キロのヒラメを追加。川村さんは50センチもあるうかというマトウダイも釣り上げる。私といえば、35センチのクロソイを釣ったものの本命は上がらず、残り時間が30分と迫ってきた。

船宿information

銚子外川港
長栄丸
☎0479-22-0567
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=ヒラメ乗合一人 1万3000円(エサ、水付き)
▶備考=予約乗合、4時集合、4時半出船。帰港後、お弁当と飲み物サービス



木村 真喜雄船長

このように一発逆転のドラマがあるのもヒラメ釣りの醍醐味であり、面白さでもある。皆さんにも味わっていただきたい。

6月中旬、釣友の塙くんを訪れたのは銚子外川港の長栄丸。木村真喜雄船長によれば、解禁してからトップ4~5枚で推移し、今のところ一人もオデコを出していないとのこと。サイズ的には1キロ前後がアベレージとなっているが、高確率で3キロ級の大型が顔を出し、前日には6.3キロの特大サイズも飛び出したという

やっぱり置き竿はNG

「ヒットしたなら声をかけてよ!」と文句を言っている左トモで川村さんの竿が曲がった。無事タモに収まったヒラメは500グラムほどと小ぶりながら、「ヒラメ初挑戦で釣れました」とニコリ。

目下のポイントでは水深15~30メートル付近で標準オモリは60号だが、潮が速いときは80号を使うとのこと。ところで、ヒラメ釣りは難しいというイメージがあるのは、アタリがきてもバラす確率が高いからだろう。バラシの主な原因をあげていくと、早合合わせの食い込み不足、強引な合合わせによるスッポ抜け、逆に合わせが甘い

エサのイワシを弱らせないコツ

元気に泳ぐイワシエサがヒラメへの一番のアピールとなるため次のことに注意していただきたい。イワシを持つときは手の熱でダメージを負わせないように優しくかつしっかりイワシを持って素早くハリを打つ。投入は海にイワシを放ってからオモリを落とし、サミングしながらゆっくり下ろして着底させ、誘いの動作もゆっくり行う。根が荒いポイントでは捨てる糸を長めにし、イワシが根に当たらないようにする。移動の際は、ハリを打った状態でオケに入れたイワシのハリスが海水循環ホースに絡まないように気を配ろう。



▲まずはヒラメにアタリを出させることが先決。イワシにヒラメの歯み跡がついていればエサ付けは合格!

